

★学校の教育目標 「すべての“いのち”がよろこびあふれる未来をつくっていく力」を育むため、多様な関わりを通して、前向きに学び力を育成する。

★目指す学校像（ビジョン）

【目指す児童像】 ○ すすんで学ぶ【自己決定力】 ○ 助け合う【人間関係形成力】 ○ 楽しく運動する【実践力】

【目指す学校像】 ○ 児童が、互いに支え合い、違いを認め合い、自分の成長に自信がもてる学校 ○ 保護者・地域住民の方々が、安心して子供を通わせ、自らも参画する学校

【目指す教師像】 ○ 児童理解に基づき、組織の中で強みを発揮することができる教師

★重点計画の概要

(1) 文部科学省研究開発学校として、「夢中になれる 夢中にさせる 日野四小」を学校標語とし、学びの変革プロジェクトの探究的な学びを充実させることで、児童一人一人が多様な学び方を身に付け、深く学び力を向上させる。

(2) 多様な関わり、対話の工夫を通して、“いのち”の教育を推進し、道徳教育・生活指導を充実させる。

(3) 体力・運動能力調査、意識調査から児童の強味・弱みを把握した授業実践を通して、体を動かす楽しさ・心地よさ、人と関わる楽しさを向上させる。また、食育の推進により健康な体づくりに資する。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	児童一人一人の実態に応じた多様な学びや学び方を実現できる授業づくりを行う。	自分で考え、すすんで学ぶ自己決定力を育てるため、「できる楽しさ・分かる楽しさ・認められる楽しさ」を実感させる授業を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> チーム担任制の実施 教科担任制、一部教科担任制の実施 自由進度学習の推進 マイプランスクールのさらなる充実 一人1台の学習者用端末の活用 学力調査・意識調査から児童の弱み・強みを把握した授業実践 	4	4 児童が決める・選ぶ、進める学習を年間3回以上実践した教員が90%以上	4	4 アンケートで、授業が「できた・分かった」と答えた児童が90%以上	チーム担任制や教科担任制等の取組が児童の学習にとっても効果的に働いている。普段目立たない児童や発言できない児童も、教員の声掛け一つで気持ち前向きになる場面が多くあった。中には落ち着いて静かに学習したい児童もいるため、一人一人の児童に支援が届いているか確認していく必要がある。	児童の92%が肯定的な回答をしており、学習を支援する様々な取組の効果が表れている。特に各教職員の教科の専門性を生かすことのできる「教科担任制」は、本校の大きな強みとなっているので、高学年に限定することなく、可能な限り全学年で実施できるように、さらに体制を整えていく。
	体を動かす楽しさ・心地よさ、人と関わる楽しさを意識した授業を全校で実施する。	最後までやりぬく実践力を育てるため、多様な関わりを通して、児童の興味や創造性、感性を生かすよう、運動や遊びを工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> 体力・運動能力調査、意識調査から児童の強み・弱みを把握した授業の実践 体力向上に向けた全校取組の実施（持久走・縄跳び旬間等） 第四幼稚園との連携・交流活動 	4	4 児童の興味や創造性、感性を生かす授業や活動を月1回以上実践した教員が90%以上	4	4 アンケートで、「体を動かす楽しさ・心地よさ、人と関わる楽しさを味わうことができた」と答えた児童が90%以上	体を動かすこと、仲間と集まること、学校と習い事のみになってしまっている状況があり、仲間と一緒に〇〇する経験がより重要になってきている。放課後はゲームや動画、オンラインがほとんどなので、休み時間に友達や先生と一緒に外遊遊している姿は、とてもうれしく貴重に感じている。	児童の93%が肯定的な回答をしており、様々な体育的活動の効果が現れている。特に休み時間を利用した体力アッププロジェクトやなわとび旬間、持久走旬間は、児童に「体を動かす楽しさ・心地よさ」を実感させる取組となっている。家庭と運動の重要性を共有するため、学校公開等でも体育的活動の取組を参観できるように調整していく。
みんなの多様な学びとあわせをつくる	自分たちで考え、語り合いながら解決策を生み出す探究活動・自治的活動を推進する。	思いやりをもち、助け合う人間関係形成力を育てるため、互いに支え合い、違いを認め合い、自分の成長に自信をもつことのできる仲間集団をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の思いや願いをかなえる学級会の実践 マイプランスクールで探究した内容を伝える機会（マイプラフェスタ）の設定 異年齢の仲間集団で、ルールを作りながら楽しく活動する「委員会・クラブ・たてわり班」の実施 	4	4 児童が考え、語り合いながら解決策を生み出す授業や活動を月1回以上実践した教員が90%以上	3	4 アンケートで、「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が90%以上	マイプランスクールの取組は日野四小の特色として、ぜひこれからも続けてほしい。児童が自分で気付いて考える経験は、これからの社会を生き上で大きな力になる。人前での発表を1年生から積み上げることは、自己肯定感を高めることにもつながると思う。外部人材の活用も必要になると思うので、地域全体での取組を支えていきたい。	思いやりをもち、違いを認め合い、自分の成長に自信がもてる仲間集団をつくることのできるように、児童の思いや願いをかなえる学級会、対話的授業、マイプラフェスタを実施した結果、児童の81%から肯定的な回答を得た。学級会の頻度に学年や学級によって差があるため、学校経営方針にも位置付け、学校全体で児童の自治的活動を推進していく。
	いじめ問題の未然防止・早期発見・早期対応を徹底する。	児童の心情の把握、児童理解に基づいた指導の推進によって、「分からない」と言える雰囲気、「教えて」「助けて」と言える関係、教え合い、助け合える学校風土を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校いじめ防止基本方針「いじめ見逃しゼロ、SOS見過ごしゼロ」（いじめを「防く」・いじめに「気付く」・いじめから「守る」）に基づく組織的な取組の推進 いじめ解消に向けた指導方針・計画の共通理解、当該児童の心理的ストレスや不安の解消に向けた組織的対応 	3	4 「子供のサイン・変化を見つけるチェックリスト」等を年間を通して活用し、学年会等で報告・連絡・相談を行った教員が90%以上	4	4 アンケートで、「先生は気付いてくれる・守ってくれる」と答えた児童が90%以上	何がいじめで何が友達同士でのふざけなのか、見極めが難しいと感じている。また、児童に対してどの程度まで指導をしていいのかわからない、判断に迷うことがよくある。「人が嫌がることはしてはいけない」という曖昧な基準だけでなく、学校でも地域でもいじめに対してどう取り組むかを共通理解した上で、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいきたい。	学校いじめ防止基本方針に「いじめ見逃しゼロ」「SOS見逃しゼロ」を掲げて組織的な取組を推進した。その結果、児童の91%が「困っていることや助けてほしいことに気付いたり、守ったりしてくれる」と回答した。年度当初の保護者会で保護者に向けて学校いじめ防止基本方針の概要を説明するとともに、学校ホームページでも周知した。学校と家庭で協働しながら、いじめ防止対策を推進していく。
社会と未来に開き、みんなで作る	わくわく（児童の疑問やおどろきから生まれる問い）が広がっていく環境をデザインする。	よりよく生きようとする、よりよい地域社会をつくらうとする児童を育てるために、地域社会の教育資源を活用し、体験的な学習活動を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域、外部講師の方々との連携による農業、栽培、郷土、文化、芸術、スポーツ、ものづくりなどの特別授業の実施 学校Webページ等による学校における取組の発信 	2	4 保護者、地域、外部講師の方々と連携した学びについて、学校Webページ・授業公開・保護者会・配布物・掲示物のいずれか3つ以上で発信をした教員が90%以上	4	4 アンケートで、学校における取組の発信について肯定的な回答をした保護者が90%以上	学校ホームページやアプリでの発信が多く、学校の様子がよく分かってとてもよいと感じている。地域との連携という点では、日野四小の周りには高齢者施設が多いため、そういった福祉機関との連携を進めてもよいのではないと思う。核家族化が進み、高齢者との関わる経験が少ない児童も増えてきている。将来、高齢者を支える立場になる前に、現状を理解しておくことも必要だと考える。また、日常的に挨拶を交わすことは、地域と児童が顔なじみになること、ひいては防犯にもつながるため、今後も続けていきたい。	保護者の92%から学校における取組の発信について肯定的な回答を得た。また、よりよく生き、よりよい社会をつくらうとする児童を育てるため、農業、文化、芸術、スポーツ、ものづくり等の体験的な学習活動を充実させた。マイプランスクール等における地域人材の活用に課題があるため、より多くの情報を収集し、児童の教育活動を充実させるための教育資源を増やしていく。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。